



ひっぴだより

No.11 2018/1/31

スキーウェアを着て、手には赤いソリを持つ子どもの後ろ姿。数日前につくったそりすべり用の小さな雪山に向かって歩いている。そんな写真があります。しかし、その子の姿もその山もぼんやりとしか写っていません。猛吹雪の中で遊ぼうとする 4 歳の頃の僕。母が窓から撮ってくれた大切な写真です。

小さい頃から雨や雪、状況が悪いときの外遊びが大好きでした。台風の日も、よくずぶ濡れになって遊んでいました。もちろん晴れている日にのんびりと過ごすのも良いのですが、ずっとそれが続くと、どうも僕はうずうずしてしまうのです。安心できる場所にずっといるよりも、安心できる場所を新しく作るのが好きなんだな、と自分で思います。そんな性分の僕は、安心の場である<森のようちえん ひっぴ>から 3 月末で旅立ち、新たな冒険に挑みます。

ひっぴとの出会いは偶然の事故のようなものでした。2009 年、東京から軽井沢に引っ越すにあたって、まだ幼児だった鼓太郎、関太、快之介の幼稚園・保育園を探していました。「一日中、野外で過ごすおもしろい園があるんですよ。」とお世話になっていた不動産屋さん。その人に連れて来られたのが 2009 年 1 月 20 日のこと。当時はフェローシップバイブルキャンプの広場を活動拠点にしている、今のひっぴの森は「お出かけ場所」の一つでした。ひっぴが始まって 2 年目。今の小学校 6 年生が、どんぐりさんの年齢の頃です。子どもが 10 人、大人は 2 人。ちいさなちいさな園でした。雪積もる広場や森の中で、全身を動かして遊ぶ子どもたち。寒いのにすごいなーとは思いました。ただ、子どもは遊び道具がなくても自然の中ならたっぷり遊ぶというのは、自分の幼少期の体験もあり、それほど驚くことではありませんでした。「ここならうちの子どもたちも楽しく毎日を過ごせるだろうな。」と思いました。そう、もしもこの日あの<事件>が起きなければ、我が子たちはひっぴに入園していたでしょう。でも、実際に入園（?!）したのは僕だけでした。

それはひっぴランチの時に起きました。その日のメニューは焼きおにぎりと煮込みハンバーグ。焚き火を囲み、身体を温めながら、立って食べるというのが当時の冬のランチスタイル。準備が整った人から、焼きおにぎりをもらって食べ始めます。3 歳になったばかりの久道くん。彼は外した手袋を焚き火の周りの石の上に置きました。濡れた手袋を乾かそうとしているのでしょう。でも、どう見ても火に近すぎる。大丈夫なのかな? と気になりましたが、スタッフは何も声をかけないし、手もださない。「何か起こるぞ、これは…。」そんなことを思いながら、手袋と久道くんを交互に見ていました。案の定、手袋は焦げてしまいました。それに気がつき、声をあげて泣く久道くん。「やっぱり焦げましたね。」と、スタッフの 1 人（わこさんでした）に声をかけると「そうですね。でもね、先週は燃やしちゃったんですよー。」と笑顔。衝撃でした。これが<焦げた手袋事件>です。

「ほらほら、このあいだ燃やしちゃったでしょ。もっと離しておかないと。」と声をかけ、大人が手袋を動かしてしまうのが普通でしょう。それが、ここにはない。それによって、久道くんの手袋は先週も今日もダメになってしまった。先週は燃やして、今日は焦がしている。2回とも完全な失敗です。でも、ほんのちょっとかもしれないけど確実に火との距離を学んでいるように僕には思えました。そして、その2回の失敗を見守っている、見届けている大人。(単純に人手が足りなく、見逃していただけだったのかもしれませんが…笑)

これはすごい。人は失敗から学ぶ。たくさん挑戦して、たくさん失敗することが大事。「失敗しても大丈夫」という実感の積み重ねが、確かな自信としてその子の中に培われていく。その現場に身を置いてみたい。そこで学んでみたい。帰りの東京に向かう新幹線の中であれこれ考えました。これはもう突き進むしかない。進めているプロジェクトは中断しよう。3月5日に「ボランティアでいいから働かせてください。とまゆさんにメール。「4人のお子さんを養えるだけの給与は払えないので…」と断られかけたので、自分の状況を包み隠さず伝えました。3月30日にトンボの湯の横のハングリースポットで「ダッチオープンが得意です。」とアピールし、4月10日の入園の集いから押しかけスタッフとして関わることになったのでした。こんなふうに、<森のようちえんぴっぴ>という場での冒険はスタートしたのでした。

週2日だけ保育に出ていたのが、1日、また1日と増え、2012年にはぼろぴっぴもスタート。その合間に並行して軽井沢中部小学校の子どもたちを対象にした<通学合宿>という活動も始めたりしました。2歳から12歳まで。様々な子どもと共に過ごし、学ぶ日々でした。

ふりかえると、どの現場でも大切にしていたのは「やってみる」ということ。「やってみる」が許される、認められている。たくさんの「やってみる」が集まっている、積み重ねられている。その主体は子どもだけではなく大人も。「やってみる」の結果を評価したり、評価されるのではなく、「やってみる」そのものが大切にされる。何を「やってみる」のかは本人が決める。他の人から与えられるものでも、決められるものではない。そのためには、余地や余白がたっぷりと残され、守られていることが重要。子どもたちのちいさな「やってみる」が、子ども自身の心と身体、そして森いっぱいにあふれているぴっぴは、子どもが幸せな子ども時代を送るのに最高の場所です。

そんな幸せな子ども時代が、小学生になっても、中学生になっても続けられるような環境をつくろう。子どもが自分の人生の主人公でいられるよう、人間が本来持っている学ぶ力を信じて、余地や余白がたっぷりある学びの場をつくろう。それが僕の新しい「やってみる」です。

ぴっぴで学んだたくさんのことは、楽天で学んだことと同じように僕のベースになっています。ぴっぴの一員として人生の大事な時を過ごせたことを誇りに思っています。そして、たくさんの「やってみる」をわかちあってきた子どもたち、僕のたくさんの「やってみる」を認めてくれたスタッフの皆さんと保護者の皆さんに深く感謝しています。本当にありがとうございました。これからも、森のようちえんぴっぴを大切に思う気持ちに変わりはありません。共に未来を拓くよき仲間として、ある時は刺激し合い、またある時には支え合える存在であり続けたいと思います。

慎之介

＊ おおきいみみ「より

おおきいみの朝の集りの最後に、「今日でゲームはいい？」と声がかかると、「いいよー」と答えると「やったー！」の声。これは多分、ゲームに予定やカリキュラム的の時間制限がある何かがあること...を指すのしょうが。言いかえれば「時間を気にせず思う存分やりこむ遊びをしてほしいんだ。」の「やったー！」のしょうが。そしてゲームにも「いいよー」ある不確定のとき、「わーさん、ここに宇宙船があるよ、見に来て。」の声に行くと、少し前に伐採した白樺の木をまわって置いてあるのが宇宙船に設置してあるのしょうが。果は「この板がいろいろ積んであるとこうはビョーンと跳ねるハネウツだね」視座「この板がハンドル、ここが運転席。」礼「敵が来たらこの銃でバババーンと撃てる。宇宙には結構色んな敵がいるから。」いろは「このへんはいろいろカッパで、何人か一室に寝られるよ。」雄希「ここはお風呂とトイレがあるからね」しばらく宇宙旅行ができそうな豪華な宇宙船です。「さうさう出発しよー！シートベルトをしっかりお締め下さい。」出発すると次は敵が攻めてきます。「あ、エイリアンか！100人くらい来たぞ。急いで攻撃準備！」「了解！」やったー！と思つたら次は「UFOのいよいよ来た！攻撃準備！」「でも悪いUFOじゃないかもしれないよ、なんにしろはって言ってみたら？」「さうだね、敵がどうかわかんないか。」どうやら反社会的なUFOにたたく一安心。それでは「まだ誰か来るぞ、見張って！」

一方、近くの海軍基地の辺りでは、見張りに付いて行く毒薬を作っているグループがあり、バケツに泥をのどろろと入れ、そこに色々な毒を集めてかき回している様子。礼「わーさん、この強力な毒でできるといって見せて来てくれました。礼「あ、どうしてですか？、いま宇宙にも最強の鬼が出て来たらしいんだって。この毒で一室に巣くわれない？」咲美「いいよ、この強力な毒から！」「入れー」と毒作りをしていた咲美、天音、澄佳、英志も宇宙船に乗り込んできました。「宇宙船で見張りに行くんだと楽しんでね」と毒作りメンバーもわくわくと出立です。

三学期になると、この遊びが一層充実していきます。この宇宙船はさらに別の場所へ着陸して、コンパネの板を渡して滑り台まである船に進化したので、子どもたちは果てしない想像力と創造力には驚かされます。この後雪が降りからは、透明な波板をスノボやスキーにして滑るこの宇宙船に乗り込んでいくように、さらにひろく滑ります。この日のように別のこの遊びが融合してさらに大きな遊びが展開されて、あるこの遊びが何日も経てば、さらに進化、分岐していくという場合もあります。その中で自分の方針が通らないうちに「涙」に打たれ、じゃあこうしたらという反撃のけんかややりとりもたくさん。その中で自分の気持ちに打ち勝つことができ、反撃の意見を取り入れていく子どもは「遊びが面白くなる本質は、自分たちが作っている遊びからこぼれかたの醍醐味」と言えます。さういって「毒作りでは、「ここはTくさん毒きの工作があるからね」とあかりさんが昔のこのいよいよ行きたる種を指すと、「ほんとに毒きの工作なの？」と英志の目がまん丸に膨らんで、まじまじと、あかりの後ろをまじまじと、くりとくりと追いかけて遊びたい。さうとTくさんのことを口ずかしているのしょう。「ゲームはいい一日」のゲームはいいよーはあかりも遊具もきりもなんでもなく自分たちの力で遊べるよ！そのかもしれない。あかりさんは三学期あつた「ゲームはいい一日」に、めいめい自分たちの遊びを存分に楽しんでほしいです。

：美和子

氷点下12度の寒い朝、隣町の尾台さんから電話がありました。尾台さんはあの死んでしまったオス羊の麦をくださった御代田の羊飼いのおいちやまです。「いま双子の仔羊が産まれたから、お産の処理など見に来るといい、すぐおいで。」尾台さんは獣医さんなので、もしかしたら春にうちでも仔羊が生まれるかもと色々繁殖の相談に乗ってくださっていました。どきどきしながら駆けつけると、「一匹はダメかもしれない。親が放棄している。」と庭へ案内していただきました。この寒空の下なんと小屋の中ではなく外の草地に、一匹はお母さんの横で座り、一匹は草の上で目を閉じて横たわっていました。「一匹はすぐ立ったから初乳を飲んでもう大丈夫だが、もう一匹は立てなかったから親が舐めてやらす放置したまま、まだ初乳も飲んでいないからダメかもしれない。」草の上にかすかに息をしながら横たわる小さな仔羊はなんとも寒そうで「毛布か何かかけないと寒くないですか。」と聞くと「あまり人間が触ると匂いがついて完全に親が世話をしなくなる。油で覆われているから大丈夫、しばらくは触らないほうがいい。」と。もう一匹の母親の横にいる仔羊も寒空の下で本当に寒そうですが「母親がちゃんと風上に座って風をよけているし腹の横に置いて温めているから心配ない。利口なものだよ。」とまだ氷点下10度の草原でじっとしている母子を見守っていました。後産(胎盤など)がお尻から下がっているが、とれたら食べてしまう前に処理したほうがいいとか、産後1日目は初乳をしっかりと飲むかどうか絶えず見るように、と色々なことを教えていただきました。そうこうするうち近くにいたもう一匹のメスが産気づいて目の前で仔羊を産み、この日はお産の実際を学ぶ貴重な1日になりました。双子の片方は結局お昼前にはいったん立ち上がったものの、母親がお乳をやろうとせず夕方から哺乳瓶で人口哺乳を始めたが、初乳を飲まなかったからか二日目の夕方には立てなくなり死んでしまいました。尾台さんの家では1月に合計4匹の子どもがうまれましたが、もう一匹やはりすぐ立てなかった子どもを母親が授乳放棄し死亡、結局半分の2匹だけが育っています。育たないと見込まれる子を親が放棄するのは自然の摂理と聞いても、小さな仔羊が息をしているのに人間の手ではどうしようもないその現場は過酷なものです。「家畜を飼うというのはいつも死を覚悟するってことだから、冷静に判断するんだよ。むやみに手を貸さない。自然には逆らえないってこと。」という尾台さんの言葉が重い。なんと獣医さんでもお産当日までその3匹の親が妊娠しているかわからなかったそうです。うちにも春には仔羊が産まれるのでしょうか。今日もすまして草を食べるうちのメス3匹のお腹をさわってみましたがよくわかりません。オスの大豆は初めて雪が積もった日の朝、小屋の戸を開けて外に出た時、生まれて初めて見た雪景色に「なんじゃこりや」という顔で呆然としばし立ちすくんでいました。

：美和子

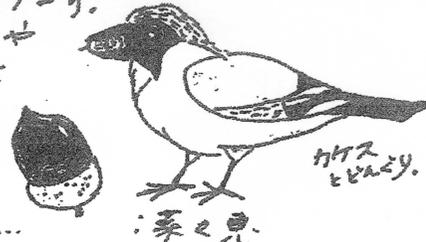
ひびきの森の木の葉たる 1月 ミズナラ

雪と氷に覆われる静かな冬の森。そんなひびきの森へ朝早くでかけると、雪の上にてんてん... てんてんとは足跡がつかっているのをみつけることがありますが、よくみると何種類かの足跡が...。よくみるのはウサギ、リス、鳥たちの足跡もありです。リスは冬の間に木を渡る姿などみかけます。この厳しい寒さの中、生き物たちはどうやって食べ物を得ているのでしょうか。

リスが冬で食べる木の葉の1つ ミズナラ(どんぐりの1種)はリスだけでなく多く種類の生き物が冬の蓄えとするかかせない木の葉です。ツキノワグマはどんぐりのアエリ具合でお産できるかが決まってしまうこともあるようです。他にもカケスという鳥は大量のどんぐりを秋の間にせっせと集め、木のうちや土の中に隠して冬に備えます。1000個近くのどんぐりを集めたというカケスもいるとか。隠した場所もよく覚えていて記憶力のよさに驚きます。でもさすがに忘れていたどんぐりもあって、それが春に芽生えてどんぐりの森づくりにもカケスは一役かているようです。ミズナラの木の根元に落ちているどんぐりより、他の環境のよい所(日光や水はけなど)に運よく忘れられ大きくなるといふ説もあります。

春の元ではよく、全く別の場所で大きくなるといふことやカケスが売れたどんぐりが森をつかっていくなど、自然界には不思議なつながりや、気がかせることが色々あると思えます。今年も冬に落ちたミズナラ、この冬の間に、これから芽生える葉がまわっているのでしょうか。

今年1年も和道にヒトでも素敵12年になりますように...



：葉と果